

保育者のための造形指導についての一考察 ～折り紙を使った作品作りを通して～

稲生 弘志

指導案 切り紙プリント 模擬保育 ワークショップ

1 はじめに

『保育所保育指針』（厚生労働省 平成29年告知）における表現の保育内容では、「生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする」「いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ」「かいたり、つくったりすることを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりなどする」とある。保育者養成校ではこのことをふまえて、授業の学びが保育現場で生かされることが大切であると考え。いわゆる板書型の講義形式の授業形態より、遊びや活動を取り入れた造形活動を行なったり学生同士のグループで話し合ったりした授業のほうが、学びが深いと考える。筆者の『保育者養成のための授業の在り方についての実践報告』¹での課題として、「季節を味わう授業とは言えなかった」「手指の巧緻性を育てるための作業としては簡単であった」「幼児が主体的に取り組める支援が少なかった」の3つを挙げた。特に本研究ではこの課題への対応を重視した。昨年度の研究成果と課題を生かし、本研究を行った。

2 研究の目的

筆者担当の「保育内容の指導法（造形）」において、幼児が興味をもつ花火作りを通した授業の学びが保育現場で生かされることを目的とする。学

¹ 稲生弘志著『保育者養成のための授業の在り方についての実践報告～保育園の実践を通して～』では、課題として3つ挙げている。信州豊南短期大学紀要第39号、2022年

習課題や題材提示、授業内容等、学生と共に授業の在り方について研究をして、よりよい幼児造形の指導を目指したい。また、幼児・小学生と保育者を目指す高校生向けのワークショップを行い、成果や課題を短大の授業にフィードバックし、保育現場への実践的な授業に役立てたい。

3 研究方法

花火を折り紙で作る。授業研究を行ない指導案を作成後、グループ内で模擬保育の指導ポイントを共有し合う。その後、学生同士で模擬保育を行い、保育園での実践に臨む。しかし、コロナ禍での保育園での実践が行うことができなかった。代わりとして、幼児・小学生向けのワークショップ、保育者を目指す高校生向けへの出前授業を通して研究の検証を行う。花火作りは学生やワークショップの幼児たちにとって意欲をもって取り組むことができると考える。また、自分の切り紙プリントから好きな形や色を選んで作ることで、どの子も取り組めるように工夫する。この研究を通して保育者のための造形指導を考え、授業の改善を図っていきたい。

4 研究実践

(1) 折紙教材について

折り紙を折る行為は、イメージした形が一連の行為のなかで、手の中にできあがっていく楽しさが味わえる活動である。そして、折り紙を折るということは、珍しいものを好む幼児の好奇心を誘発する。折り紙を使った「花火作り」は、丁寧に折る必要感とともに、何度も折ることで手順を考えたり折り方を工夫したりしながら、折りたいものが折れるようになるという、先の見通しをもって楽しめる活動である。また、没頭して取り組む「集中力」、こうだからそうなるという「論理性」、細部まで丁寧に細やかに折ることで「手指の巧緻性」などを養うことができる。継続して折り紙を行うことは、図形認知が促されるものと考えられる。

本研究では、折り紙を使った切り紙飾りで花火を造形する。

紙を折ったり切ったり貼ったりといった手先の動きはかなり重要であるが、切紙に関して、槇は著述の中で²、「具体的なものを単純な形に置き換える力、形を見立てて発想する力は造形的な表現力の基礎です。」と述べ「視覚的な言語でもあることを意識しながら形をつくる楽しさを感じて」みることの必要性を説いている。紙を使って楽しむ切り紙の模様を取り入れれば、幼児の手先を鍛えることができ、切り紙は頭の体操になり、想像力を育む訓練にもなる。さらに、切り紙に取り組むことによって集中力が生まれやすくなり、1つの作品を完成させることは達成感にもつながっていくと考えられる。

絵を切り抜くことで知られる切り紙だが、はさみの練習には効果的だ。細かい部分をなぞるように切ることはそう簡単ではない。しかし、切り絵をすることは、1つの絵を切り取って完成する達成感を得られるだけでなく、手先の器用さにつながることもなる。最初は、ハートや丸形、三角形など簡単な形から始めて、徐々に花やカニなど難易度の高いものに挑戦していくことがおすすめであるが、様々な種類の切り貼りプリントなどはネットでも簡単にダウンロードすることができる。かわいいイラストをはさみで切り取って台紙などに張り付けることで切る以外の楽しみも味わえる。ハロウィンやクリスマス、ひな祭りなど季節に沿ったテーマで遊ぶなど、形がその都度違うため、幼児たちが飽きることなくはさみで切る練習ができる。

はさみの取り扱いについて、平成29年告示の保育所保育指針¹において具体的な記述はない。そこで、平成20年告示の保育所保育指針³を調べてみると、「第2章 幼児の発達」の「2 発達過程」の「(6) おおむね4歳【全身のバランス】」でハサミについて次のように記述されて

² 槇英子著「形の発見」P38、自分の手で世界で一つだけのものを生み出す造形的な表現の楽しさを実感する教材として切り紙を挙げている。『保育をひろく造形表現』萌文書林、2008年

³ 厚生労働省『保育所保育指針』平成20年告知

いる。「手先も器用になり、ひもを通したり結んだり、はさみを扱えるようになります。また、遊びながら声をかけるなど、異なる二つの行動を同時にできるようにもなります。」また、「（７）おおむね５歳」のところでは、「手先の器用さが増し、小さなものをつまむ、紐を結ぶ、雑巾を絞るといった動作もできるようになり、大人の援助により、のこぎりなど様々な用具を扱えるようになります。」さらに、「（８）おおむね６歳」では、「同時に細かな手の動きが一段と進み、自分のイメージしたように描いたり、ダイナミックな表現とともに細やかな製作をするなど、様々な方法で様々な材料や用具を用いて工夫して表現することを楽しみます。」と記述されている。つまり、平成２０年改訂の保育所指針を参考にすれば、概ね４歳からはさみの取り扱いを造形表現に取り入れるべきであることが分かる。

（２）授業における花火製作

筆者は「保育内容の指導法（造形）」の授業での花火作りにあたって、作り方プリントを作成した。幼児たちがプリントと照らし合わせながらはさみで懸命に色紙を切る姿を想像しながらプリントを作成した。どの子ども制作の手順に従って作ることができるように、写真入りの説明文を取り入れた。直線や曲線、大きさや数を違わせることで、様々なパターンの飾りを作ることができるように工夫した。また、二重に貼り合わせることで切り紙飾りの面白さや美しさを表現できるようにした。さらに、花火の弾けるイメージを出すために放射状の色画用紙を貼り合わせるようにした。

（写真１）

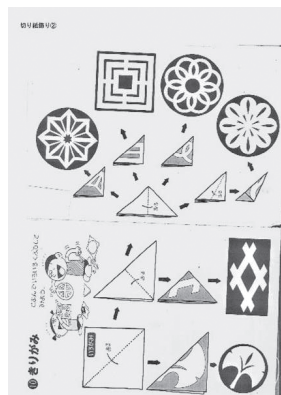
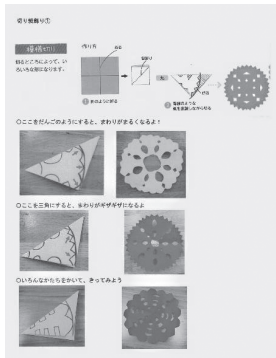
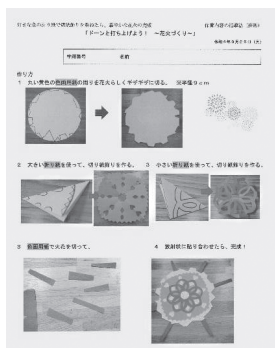


写真1 花火プリント（修正前）

切り紙飾りの美しさやおもしろさを味わう学生が多くいた。しかし、学生から以下の問題点が話し合われた。

- ⑦ プリントをもう少し整理した方がよい。
- ⑧ 切り紙の作り方の図（写真２）が分かりづらく、切るとばらばらになってしまった。

切り紙の作り方の図に従って作る途中、折り紙の上下を逆にしてしまい、図のような飾りができず、紙がばらばらになる学が多くいた。（写真3）そこで視覚的に分かりやすくするために切り紙の作り方の図を修正し（写真4）、プリント全体を整理した。

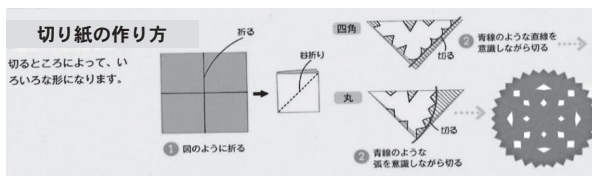


写真2 切り紙の作り方（修正前）



写真3 プリント通りに
ならなかった例

修正されたプリントでは、ほとんどの学生はプリント通りの飾りを作ることができた。（写真5）

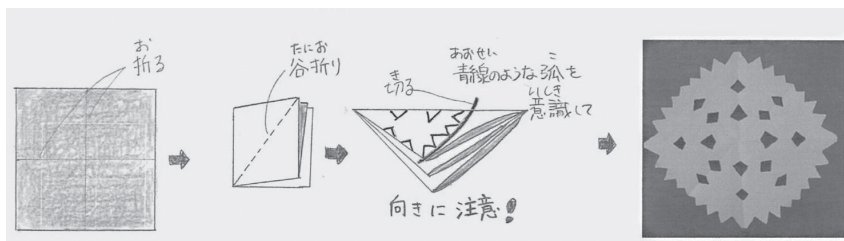


写真4 切り紙の作り方（修正後）

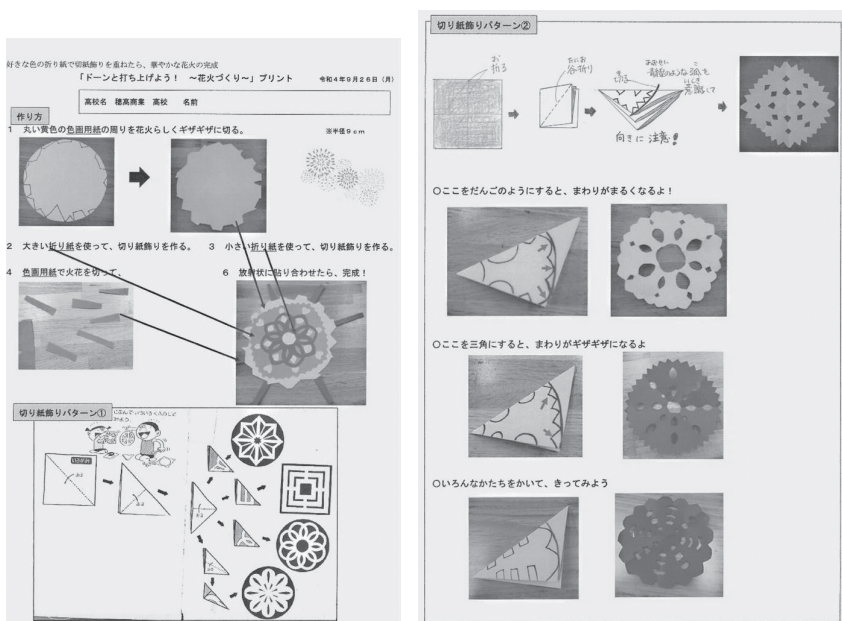


写真5 花火プリント（修正後）

（3）指導ポイントの共有、指導案の作成、模擬保育の様子

筆者の「保育内容の指導法（造形）」の授業において、3～4人のグループに分かれて指導ポイントを共有後、指導案を作成した。以下に3つのグループの指導ポイント、指導案、模擬保育の様子を記す。

㊦ Aグループの例

指導ポイントでは、以下の4点をグループ内で共有した。

- ・先生役と幼児役になりきって模擬保育を行う。
- ・幼児がはさみで切れない技術的な箇所では、保育者ははさみの指導を適切に行う。
- ・季節を感じてもらうための言葉を幼児役に声かけしながら製作する。
- ・工作の楽しさを味わうように幼児を支援する。

指導案に従って模擬保育を行った。(写真6)

令和 4年 12月 5日(月) 7:45-9:15(AM)		氏名[] []	
担当クラス(年長児)		男児(6)名 女児(2)名 計(8)名	
活動のねらい		中心となる活動	
1. いろいろな技法の表現の表現活動で表現する。		・スチロール板で線を切る。	
2. 丸い黄色の画用紙を丸く切る。		・丸い黄色の画用紙を丸く切る。	
3. 季節を感じる。		・季節を感じる。	
時間	環境状況(準備)	予想される幼児の活動	保育者・実習生の援助・留意点
0	・製作準備 ・材料準備 ・丸い黄色の画用紙を丸く切る。	・丸い黄色の画用紙を丸く切る。	・丸い黄色の画用紙を丸く切る。
10	・丸い黄色の画用紙を丸く切る。	・丸い黄色の画用紙を丸く切る。	・丸い黄色の画用紙を丸く切る。
15	・丸い黄色の画用紙を丸く切る。	・丸い黄色の画用紙を丸く切る。	・丸い黄色の画用紙を丸く切る。

写真6 グループAの指導案

保育者役が幼児役といっしょに新聞紙をテーブルに敷いたり、はさみを用意したりするなどの準備を行った。丸い黄色の画用紙をギザギザに切る作業では余分に画用紙を用意するなど、失敗した幼児に配慮をしていた。特に、小さい折り紙を使って切り紙飾りを作る作業では、保育者がプリントを見ても分からない幼児役に切る箇所に鉛筆で線を書いたり、切りにくい箇所では手助けしたりするなど、優しく語り掛けながらはさみを使った作業への支援がなされていた。

幼：プリントに書かれてある模様に作りたいけど、分からないよ。

保：じゃあ、先生が鉛筆で描いてあげるね。鉛筆で書いたところをはさみで切ろうね。

（保育者が鉛筆で切る箇所を描く。）

幼：曲がっていたり細かくて、はさみで切れないよ。

保：先生が難しいところを助けてあげるよ。

（難しい曲線や細かい箇所を少しはさみで切る。）

幼：これなら、ぼくでも切れるよ。（切り終わって開いてみる。）

わあ、すごい。きれいな模様ができだよ。

保：〇〇ちゃん、すごいね、すてきな模様を作ったね。

保育者役と幼児役との会話 1

（はさみを使って紙を切るのが困難な幼児役への支援）

発達段階や個人差により、プリントを見るだけでは理解できる幼児とできない幼児が予想される。理解できる幼児は、様々な模様作りに挑戦して表現の楽しさを味わわせるようにしたい。一方、理解できない幼児には保育者の手厚い支援が必要となる。授業の終末では、製作した花火の作品を黒の画用紙の上に掲示した。（写真7）夜空に花火が舞い上がっている様子が伝わり、掲示の方法が工夫されていた。片付けでは、作業の終わっ

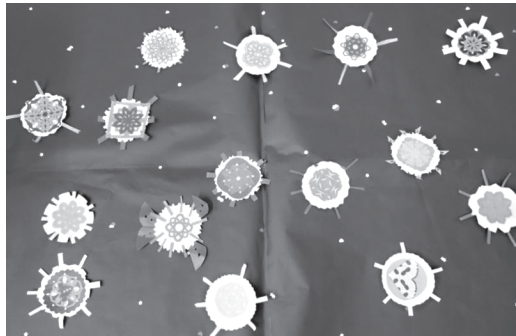


写真7 黒画用紙に他グループの作品も貼って掲示した

た幼児役から使った新聞紙やごみをゴミ箱に捨てていた。友達にはさみを手渡す時、柄の部分ではなく刃の部分差し出していたので、筆者が保育者役にはさみの扱い方について指導を行った。（写真8）



写真8

④ Bグループの例

指導ポイントでは、以下の2点をグループ内で共有した。

- ・ 幼児の主体性を大切に製作させる。
- ・ 幼児に夏の季節を感じさせ、楽しんで作るようにする。

Aグループ同様、指導案を基に模擬保育を行った。（写真12）保育者役と幼児役の役目をしっかりと果たして模擬保育に取り組んだので、会話のやりとりや保護者役の声かけ、幼児役のつぶやきを通じた学びが多くあった。導入では、保育者役が花火の思い出を幼児役に語らせ、花火作りへの意欲付けをした。（写



写真9

真9）また、保育者役は自身が作った花火を基に、製作の手順を丁寧に説明することで、幼児役は製作の見通しをもつことができた。（写真10）花火の製作ではプリント通りに作ることにこだわらず、幼児役が思った花火のイメージを大切にしていた様子が以下の会話からうかがえる。

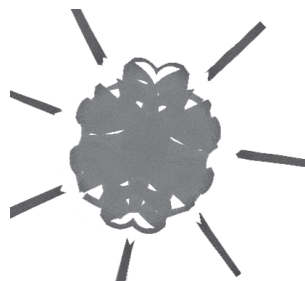


写真10
保育役の参考作品

保：プリントを参考に作るといいよ。

幼：わたしは、花火を作りたいように作りたいな。

保：（しばらく考えて・・・）いいよ。△△ちゃんの花火ってどんなの
か、見てみたいな。

幼：（作品を作り終えて）先生、こんなのはどう？

保：すてきな花火ができたね。

保育者役と幼児役との会話2

（幼児役の主体性を重視した保育者役の声かけ）

この会話の後、幼児役の学生はとてもユニークな作品を作った。（写真11）切り紙飾りを4つに分解し、黄色の画用紙に配置した。また、火花の先を自分のイメージを基に丸くした。このことからプリントや周りの友達の作品にかかわらず、幼児は自分の花火のイメージを大切にすることが本来の幼児の造形表現あり、保育者は幼児の気持ちに寄り添って製作する姿勢を忘れてはいけないことに気付かされた。後述する幼児・小学生向けのワークショップでも、この造形表現の立場を参考に幼児や小学生に接することにした。また、以下の会話には、保育者役には季節を味わわせるような声かけもあった。模擬保育の中で保育者役が幼児役の言葉を逃さずに

声かけしたことは有効であった。指導案でも活動のねらいとして記述していてグループ内でも指導のポイントとして共有していた。

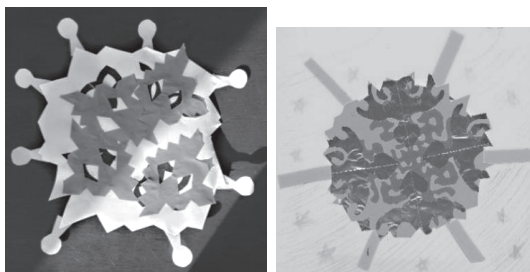


写真11 ユニークな2作品

以下は、模擬保育での主な振り返りである。

(幼児役の学生)

- ・先生役と幼児役になりきって模擬保育ができた。
- ・保育者役の友達が夏を感じさせる絵本の読み聞かせをしてくれて、花火を作りたいという製作への意欲が高まった。
- ・学生ははさみを自在に使えるが、幼児によってはそうではない。できない幼児への援助の仕方を考えなくてはいけないと思った。
- ・切り紙プリントの難易度は適切だと思う。理解できない幼児には保育者が鉛筆で書いてあげたり、細かい部分は切ってあげるなどの援助が大切だ。
- ・はさみをうまく使えない幼児には、その子に合わせた切り紙飾りを選んであげるのもよい。
- ・切り紙がばらばらになった。保育者は切り紙の折り方や切り方の伝え方が重要だ。また、ばらばらになったときのフォローも重要だ。
- ・花火を切る向きを間違えるとばらばらになってしまう。そこで、○×のように記号を使って折り方を説明した方がよい。
- ・黄色の色画用紙で作った花火の土台に模様を描いてアレンジを加えたところ、とてもすてきになった。
- ・プリントの書かれてある折り紙の折り方を幼児役同士で確認し合った。
- ・すでに画用紙が丸く切ってあったので、製作しやすかった。
- ・花火作りが楽しかった。
- ・火花の部分は幼児に形を任せてもよいのではないか。
- ・不思議な作品ができた。自分らしい作品になった。

(保育者役の学生)

- ・模擬保育の導入で、花火の絵本の読み聞かせを行い、夏を感じさせるような授業の工夫をした。
- ・夏の花火を感じさせるような声かけを行った。季節を味わうことができたと思う。
- ・事前の準備をどこまで行うべきか。
- ・分からない子、作業の遅い子に合わせて授業を進めた。
- ・ペースの早い子、遅い子に合わせた指導を考える必要がある。
- ・はさみの注意を説明してから製作を始めたほうがよかった。
- ・折り紙の折り方を説明したり、鉛筆で印を付けて幼児役に分かりやすくすればよかった。
- ・選択肢がたくさんで盛り上がるので、折り紙の種類をたくさん用意しておいてよかった。
- ・あらかじめ画用紙を切っておいたため、スムーズに進められた。

振り返りの感想から、保育者役の学生が季節を味わわせるための声かけを意識して行ったこと、はさみの作業では、幼児のレベルを把握してその子に合った援助が大切であること、「自分らしい作品になった。」と幼児役が記しているように自分らしい作品作りが成就感や満足感を生み出していることがわかる。

(4) 幼児・小学生と保育者をめざす高校生向けのワークショップ

手塚、茂木はワークショップのファシリテータ（授業者）は「学習者たちを支援し、促進する、場を作り、つなぎ、取り持つ。共に在り、問いかけ、まとめる存在」であり、ワークショップのよさを「リフレクション（振り返り）活動を重視する」と述べている⁴。短大の授業とは違う保育の学びがあると考え、この立場でワークショップに臨んだ。9月16日の穂高商業高校のワークショップでは、保育者をめざすクラスを対象としており、活動の後には「振り返り」を行い、友達の作品を見たり感想を聞いたりして幼児の花火作りでの課題を探ることができた。また、10月9日に行った幼児・小学生向けのワークショップは、3歳から11歳までの幼児、小学生が参加し、作る過程や完成した作品は高校生や本学の学生とは違い、より保育現場に近い実践的な活動となった。

⑦ 穂高商業高校へのワークショップ（出前授業）

家庭科の授業の中で保育を専攻する男女18名に花火作りを行った。（写真13）授業の始めには、生徒と一緒に「夏と言えば〇〇」の〇〇に当て



写真 13

⁴ 榎手塚千尋・茂木一司著「ワークショップ（協同的学習）とファシリテータ」P181、福田隆眞、福本勤一、茂木一司編『美術科教育の基礎知識』建帛社、2010

はまる言葉についてクイズをしたり
花火の思い出を聞いたりして、夏の
季節への関心を高めた。花火の参考
作品を見せた後、短大生が作ったユニークな作品も紹介し、花火プリント
どおりの作品を作る必要はなく、

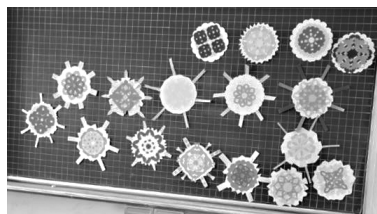


写真 14 穂高商業高校の生徒の作品

幼児になったつもりで楽しく工作してほしいと伝えた。生徒は切り紙作りが新鮮だったらしく、切り紙をはさみで切り終え折り紙を開いたとき、「わあ、すごい」「どうしてこんな形になるの」と不思議がったり驚いたりしていた。また、「きれいな形」「このかたちを少し変えたり数を増やしてみよう」と飾りの美しさに感動したり、自分なりの工夫を取り入れたりしていた。（写真14）以下は授業後の生徒へのアンケートである。

（質問項目 1：プリントはどうでしたか。また、その改善点があればお願いします。）

- ・とても見やすかった。（5人）
- ・折り紙の切り方の例が分かりやすかった。いろいろな切り方や折り方、手順が書いてあった。写真入りがよい。（7人）
- ・切り紙の作り方の図はほどよい難しさであったと思う。
- ・プリントの折り紙の折り方と切り方が少し分かりにくい。
- ・作りやすかった。
- ・見本があって、こんな作り方もあるんだと参考になった。

（質問項目 2：今回の作品作りを保育園で行うとしたら、どのようなことに気を付けて指導しますか。）

- ・何回か折ってはさみで切るとき、堅くて危ないかなと思った。そのときは先生が手助けしてあげる。細かい作業はまだ幼児はできないので大人のサポートが必要だ。幼児には楽しくはさみを使って工作してほしい。（3人）
- ・はさみでは細かく切る作業があるので、はさみを切るとき幼児を助けてあげたい。
- ・はさみを使うとき手をケガしないように指導したい。（9人）

- ・はさみの片付けに注意する。
 - ・紙を切る方向を間違えるとばらばらになってしまうから気を付けるようにしたい。（４人）
 - ・ばらばらになるので、そのときはちゃんと幼児に説明する。
(質問項目３：仕上がった作品の展示をどのように工夫すればよいですか。)
 - ・いろんな人の目に入るところに展示する。
 - ・私の作品は紫一色だったので、他の色を組み合わせてもよかった。
 - ・切り紙飾りは様々な形があるので、組合せ次第でいろいろなレパートリーがある。
 - ・名札を付けたほうがいい。
 - ・色や形を考えて展示する。隣同士の作品は同じ色合いにしない。（４人）
 - ・夜空みたいに黒色の画用紙に展示し、その黒画用紙に絵や模様も描いたほうがよい。暗めの壁に展示する。（７人）
- (その他)
- ・楽しかった。（４人）
 - ・初めて作ってみて、どのようにできるのかワクワクしながら作品を作ることができた。
 - ・材料などみんなが同じ物を使っているのに、それぞれ違った作品ができるのがすごいと思った。それぞれの個性が出て、手先の運動などにとてもよい作品作りだと思った。

振り返りアンケートでは、まず堅くて紙を切るのが難しい子供への手助けやケガへの注意など、はさみの扱い方についての記述が多かった。また、折り紙の方向を間違えると切り紙飾りがばらばらになることへの配慮について書いている生徒がいた。そのようなにならないように花火プリントを修正したが、ばらばらになってしまう生徒が少なからずいたから幼児への配慮の必要性に至ったのだと思う。幼児の個性を表現でき、手指の巧緻性を高める題材だと記述している生徒もいた。

④ 幼児・小学生向けワークショップ

富山県舟橋村の公園で、テント下に長テーブルを置いて行った。（写真15）

製作前に花火の話を幼児たちと一緒におしゃべりした。「ぼくはうちの前でパパとママとおじいちゃんとおばあちゃん



写真 15

と妹としたよ。」「火は危ないからバケツに水を入れたよ。」と花火の思い出の話をしてくれた。筆者から「どんな花火にしたい？」と問いかけたり、「きれいな色の花火だね。」と声をかけたりしながら幼児の製作を見守った。幼児たちはプリントを見ながら楽しく作品を作ることができた。

（写真16）



写真 16 幼児たちの作品

特筆すべき幼児の2例（A児とB児）を挙げる。

A児は2歳の女児である。一人でワークショップに来て花火作りをした。

「わたしは花火を作ったことがあるのよ。」と筆者に語りかけながらプリントには見向きもせず、思うがままに作った。約10分で作品を作り上げ、作品を持って母親の元に戻



写真 17 A児の作品

り、自分の作品の出来栄を伝えていた。（写真17）2歳の発達段階では、花火プリントを見て製作するより花火のイメージをそのまま折り紙で表現するのだと感じた。

B児は手足に障害のある10歳の女兒である。（写真18）母親がB児に話しかけながら、筆者が折り紙に線を書いたり切ったりする作業を行った。のりを塗って紙を貼る作業は筆者の手助けで行うことができた。作品の出来栄を味わい満足した様子であった。障害のある子どもに援助が必要であり、まだ教材研究の余地があるが、障害のある幼児への題材として相応しいと言えるだろう。



写真 18

5 考察

授業実践から得られた考察を以下に挙げる。

- ・はさみを使って花火作りに熱心に取り組む様子から、手指の巧緻性を高めるには有効だと考える。ワークショップ参加の幼児に「プリントは難しいか、易しいか」について質問すると、ほとんどの幼児が「難しくはない」と答えたように、プリントの難易度は適切と考える。しかし、理解できない幼児に対して保育者が鉛筆で書いてあげたり、細かい部分を切ってあげたりするなどの援助が必要だろう。
- ・折り紙を使った花火作りは、夏の季節を味わいながら楽しく製作することができる題材である。製作の導入部分では、保育者役の学生が模擬授業で花火の絵本の読み聞かせしたり、幼児役に夏の思い出を語らせたりするなどの手立てによって、さらに幼児役は夏の季節感を感じながら製作することができた。幼児期から自然や生活の中で季節を感じる体験をたくさん積むことは大切であり、造形の役割はその点で大きい。

- ・ 幼児の主体性に寄り添った保育者の姿勢が大切である。模擬保育でばらばらになってしまった切り紙飾りのパーツ4つを黄色の画用紙に配置して作品（写真11）を完成させた学生は、偶然性も相まって「不思議な作品ができた。自分らしい作品になった。」と記述している。また、幼児・小学生向けワークショップでの2歳のA児も、自分の中の花火のイメージを表現しようと図13の作品を作った。いずれもプリントや教師の指導を参考にはするが、自分の作りたいものを楽しく表現していることから、幼児の思いを受容することの大切さに気付かされた。
- ・ 模擬保育やワークショップでは、友達と関わりながら他の作品を参考にして自分の作品に生かしたり、自分の作品の思いを友達に伝えたりする授業内容ではなかった。造形授業において、人との関わりを通して活動したり作ったりする手立てや支援を取り入れた内容にしていきたい。

6 おわりに

模擬保育のような体験授業での「振り返り」は学生にとって真の学びにつながる。ワークシート上だけでなく、その内容について指導者も含めた全員で討議し学びを深めていくことが求められる。保育者とは日々の保育内容について書き留めて振り返り、保育者同士で話し合い、反省を生かした保育を再度行うということを繰り返しながら成長するものである。今回は保育者役や幼児役が楽しみながらも真面目に取り組んでいたが、討議（振り返り）においてまだまだ不十分であった。このような討議に導く工夫が指導者に求められる。学生の力を十分に発揮できるような環境づくりや導きを検討し、さらなる造形教育の可能性を広げていけるよう努めたい。

〈付記〉

本稿には穂高商業高校3年の男女18名、舟橋村「園むすびワークショップ」に参加した12名、本学学生のアンケート、発言、写真を掲載しております。引用に際し承諾させていただいた皆さんには改めて感謝申し上げます。

す。

引用・参考文献

- ・ 稲生弘志著『保育者養成のための授業の在り方についての実践報告～保育園の実践を通して～』信州豊南短期大学紀要第39号、2022年
- ・ 槇英子著『保育をひらく造形表現』萌文書院、2008年
- ・ 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、平成20年告知
- ・ 厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館、平成20年告知
- ・ 厚生労働省『保育所保育指針』チャイルド本社、平成29年告知
- ・ 厚生労働省『保育所保育指針解説』ミネルヴァ書房、平成30年施行
- ・ 福田隆眞、福本謹一、茂木一司編者『美術科教育の基礎知識』建帛社、2010年
- ・ 磯部錦司著『自然・子ども・アート』フレーベル館、2007年
- ・ デューイ著 宮原誠一訳『学校と社会』岩波文庫、1957年
- ・ 栗田良之助著『特別支援に役立つハンドブックvol.2 絵画・造形』いかだ社
- ・ 磯部錦司編著 他10名共著『造形表現・図画工作』建帛社、2014年
- ・ 辻政博著『子どもの絵の発達過程』日本文教出版、2003年
- ・ 『行事&季節の製作アイデア4月～9月』世界文化社、2016年